

# - おかえり、おなかすいてる? -

めぐる子ども つむぐ家

日本の相対的貧困率は先進国の中でも特に高いと問題視されている。なかでもひとり親世帯の貧困率が高く、7人に1人の子どもが貧困状態にあるという。ひとり親の家庭だけでなく、共働きの家庭が顕著に増加している。親世代は忙しく仕事をし、子どもに対する時間を割けない中、教育を取り巻く環境も目まぐるしく変化している。そんな子ども達にとって本当に居心地の良い場所はどこにあるのだろうか。  
 温かいご飯と伸びやかな生活環境を提供し、子どもにとって第二の我が家となる場所。子ども達の自由な心や生活や成長を守る。”子どもの世界を守るシェルター”としてのこども園を提案する。

グロッサリー

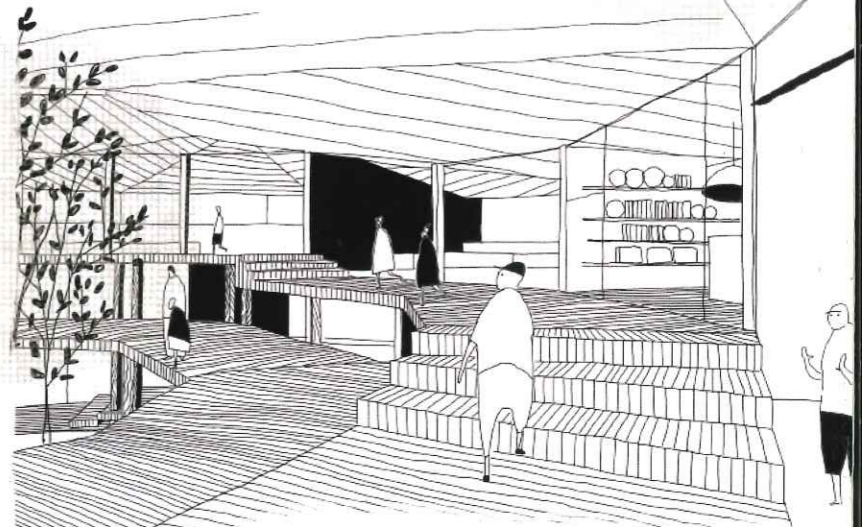
キッチン

畑

ここでは、畑で食物を育て、キッチンとグロッサリーを地域に対して開くことで、子ども達の居場所を作り、地域全体で子どもたちを守る。そして、子ども達はこども園で生産から消費という食の循環を学んでいく。やがて成長し、小学校や中学校に進学してからも我が家のようにこの場所へ帰ることができ、成長したときに今度は子ども達を守る側でこども園に関わるような、未来へつなぐ地域の循環システムを目指した。



グロッサリー側から見える畑と中庭。デッキが螺旋状に絡み、子ども達が駆け回る。

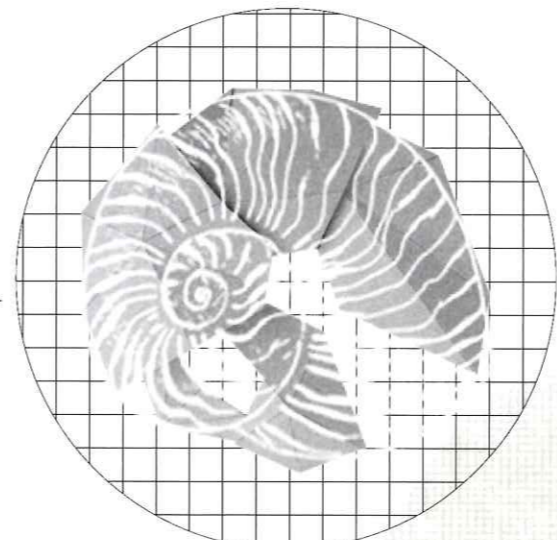
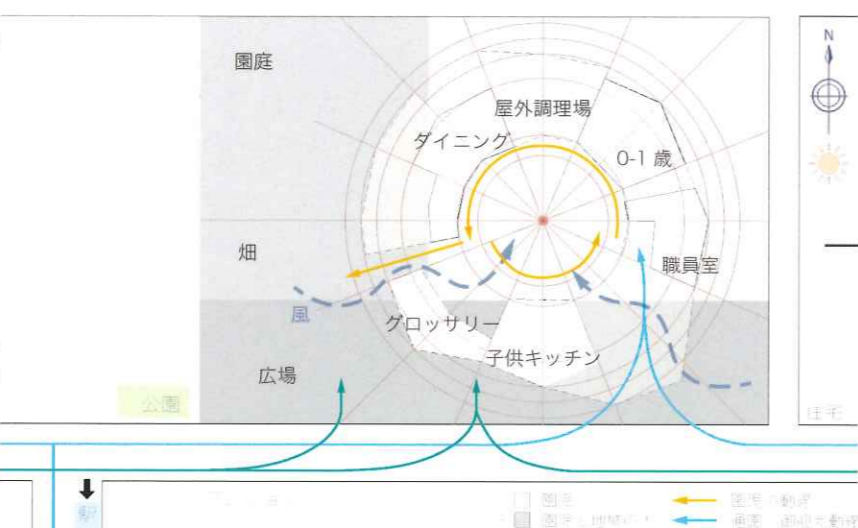
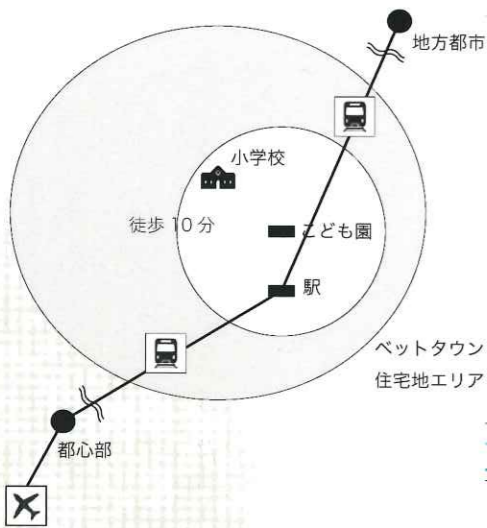


教室から見るデッキ。遊戯室や畑へ移動する。他学年と交流できる伸びやかな場所。

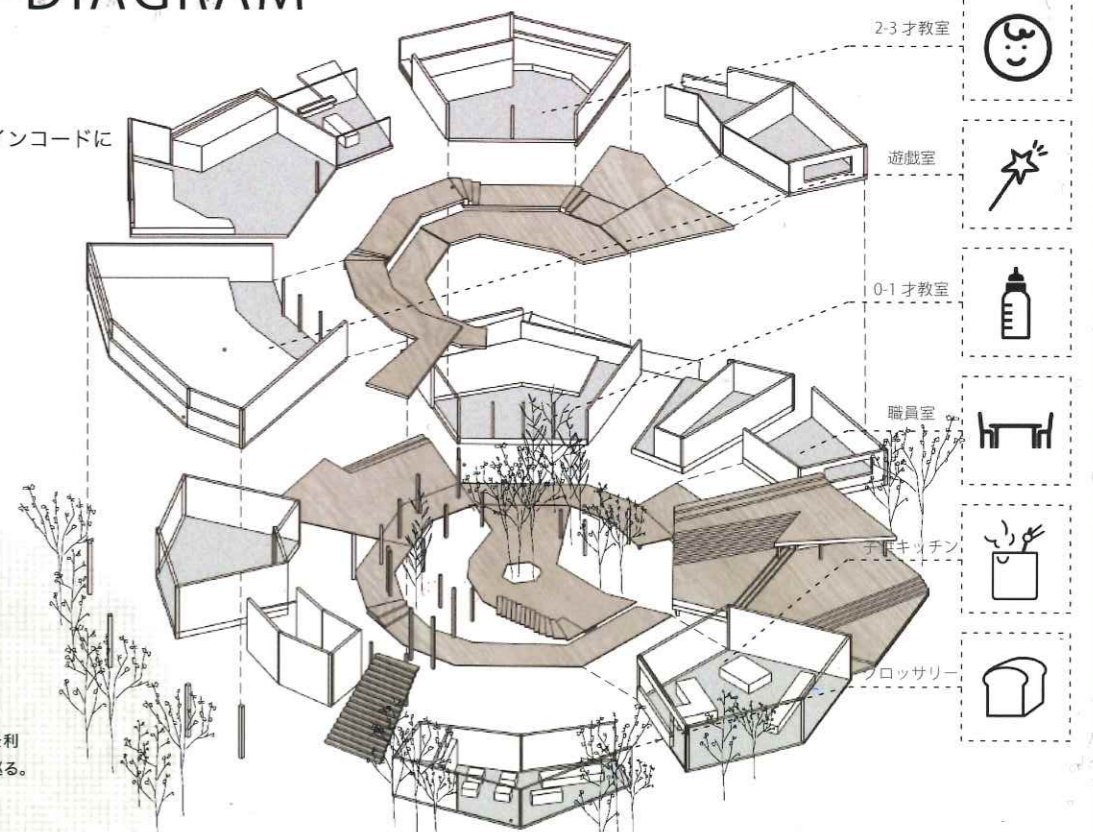
DIAGRAM 螺旋状の中廊下に教室等が巻きつくように配置される。

**SITE** 交通の便が良く都心に比べ自然が多い為、通勤者や子育てに適した環境になっており、子育て世帯が多い。  
**ZONING** 公園や地域に開いたスペースと子供達の活動場所とを畑やビオトープで繋ぐ構成となっている。

**DESIGN CODE** 外敵から身を守る “貝殻=シェルター” をデザインコードに

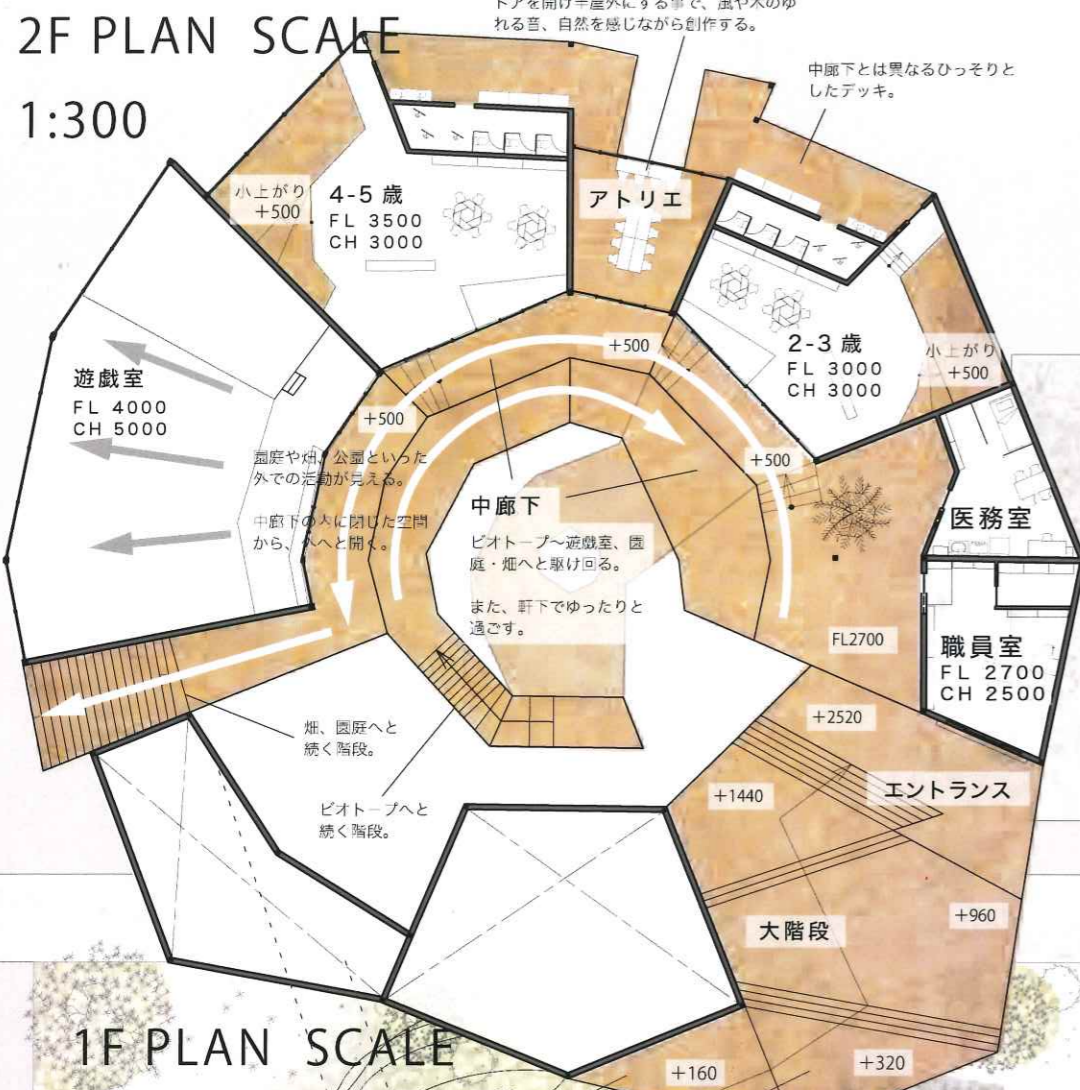


ゾーニングによって分けられたそれぞれの要素、利用者を見殻の巻きつく渦巻構造を利用して関わりを持たせながら関係づける。中心に渦巻く貝殻の様な、螺旋の動線を通る。



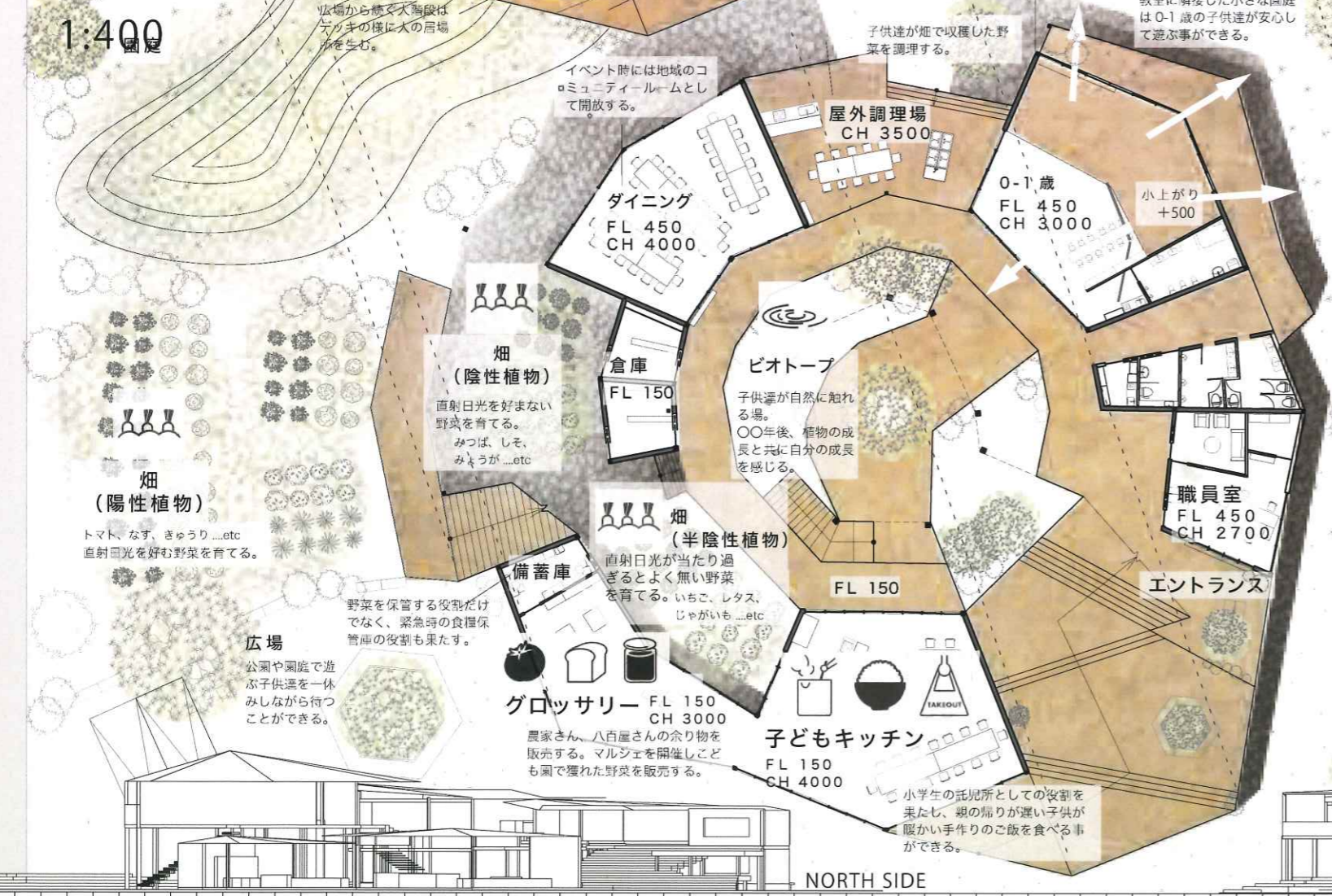
# 2F PLAN SCALE

1:300



# 1F PLAN SCALE

1:400



# SYSTEM

食物の生産から消費までを学ぶシステム。自分で育てた食物を自分で食べる喜びや地域の人たちが喜んで買う様子を幼い頃から実感し、子ども達の伸びやかな感性と自主性、積極性を育てる。

